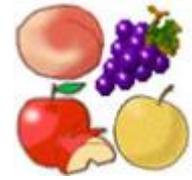


令和7年度 果樹情報 第11号

(令和7年8月21日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (8月前半、果樹研究所)

平均気温は、第1半旬が27.8℃で平年より1.9℃高く、第2半旬が25.4℃で平年より0.3℃低く、第3半旬が25.4℃で平年より0.1℃低く経過しました。

この期間の降水量は93.0mmで平年比133%と平年より多くなりました。日照時間は89.3時間で平年比90%と平年より少なくなりました。

2 土壌水分 (8月18日現在、果樹研究所)

8月18日時点の土壌水分 (pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水) は、深さ20cmで2.7、深さ40～60cmで2.9となっており、乾燥状態です (図1)。

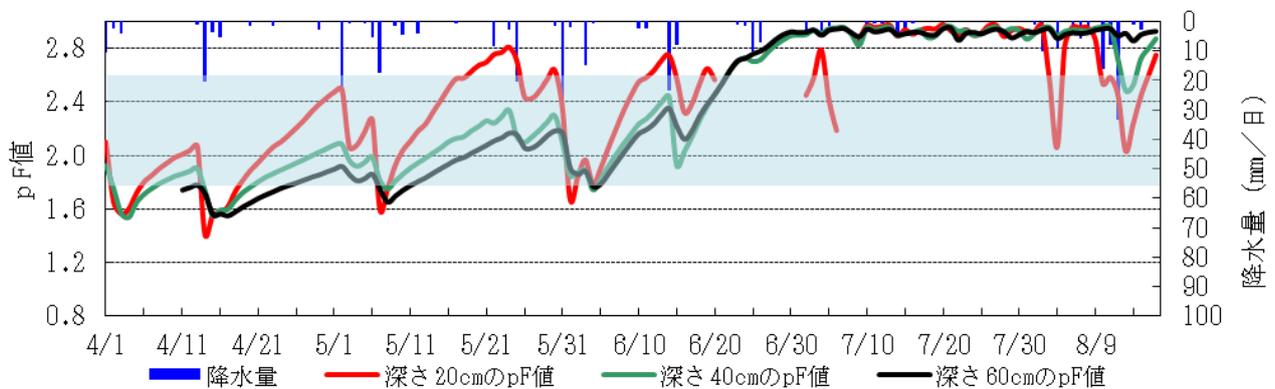


図1 土壌 pF 値の推移(果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)
図中の網掛け部は、適湿の範囲(pF1.8-2.6)

3 発育状況 (8月15日現在、果樹研究所)

(1) もも

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ゆうぞら」は縦径が75.9mm (平年比109%)、側径が82.4mm (平年比118%)と平年より大きい状況です。

満開後日数で比較すると、平年より大きくなっています。

イ 新梢生長

満開後120日における「ゆうぞら」の新梢長は28.7cm (平年比176%)とかなり長く、展葉数は21.7枚 (平年比140%)とかなり多く、葉色は平年よりやや低くなっています (表1)。新梢停止率は95.0%でした。

ウ 収穫状況

「あかつき」の収穫盛期は7月29日で平年より6日早く、昨年より7日遅くなりました。

果実の大きさは341gで平年よりかなり大きく、糖度は14.3° Brixで平年より高くなりました (表2)。

「まどか」の収穫盛期は8月7日で平年より6日早く、昨年より4日遅くなりました。

果実の大きさは323gで平年よりやや小さく、糖度は16.9° Brixで平年よりかなり高くなりました (表2)。

表1 ももの新梢伸長（満開後120日）

品種	新梢長(cm)			展葉数			葉色(SPAD)			新梢停止率(%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
ゆうぞら	28.7	16.3	176	21.7	15.5	140	43.9	46.3	95	95.0	94.7	100

注) 平年は、1996～2020年の平均値

表2 ももの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/30	7/6	6/28	7/4	7/9	7/2	7/7	7/13	7/4	316	264	303	13.0	11.8	12.7
日川白鳳	7/3	7/13	7/1	7/6	7/16	7/3	7/10	7/20	7/4	251	236	211	13.3	11.0	12.8
暁星	7/15	7/21	7/8	7/18	7/25	7/10	7/24	7/29	7/11	198	221	211	14.2	13.0	14.0
ふくあかり	7/18	7/21	7/12	7/24	7/27	7/15	7/28	7/31	7/16	302	266	306	15.8	13.0	12.8
あかつき	7/25	7/31	7/19	7/29	8/4	7/22	8/4	8/9	7/29	341	269	343	14.3	13.0	13.2
まどか	8/4	8/9	8/1	8/7	8/13	8/3	8/11	8/18	8/5	323	350	376	16.9	13.7	14.7

注) 平年値は、1991～2020年（「はつひめ」「ふくあかり」は2009年～2020年）の平均

(2) なし

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「豊水」は縦径が70.0mm（平年比105%）、横径が82.7mm（平年比109%）と平年よりやや大きい状況です。

満開後日数で比較すると、平年よりやや大きくなっています。

イ 成熟状況

満開後115日における「幸水」の成熟調査の結果は果実硬度が9.4ポンドで平年より高く、糖度が12.1° Brixで平年よりやや高く、果皮中クロロフィル含量が10.6μg/cm²で平年並でした（表3、図2～4）。果皮中クロロフィル含量に対する果実硬度は平年値を上回っています（図5）。

ウ 収穫状況

「幸水」の収穫開始日は8月18日で平年より6日早くなりました。

表3 「幸水」の成熟経過

生育日数	硬度(lbs.)			地色			糖度(° Brix)			果皮中クロロフィル含量(μg/cm ²)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
115	9.4	6.8	7.5	1.7	1.8	1.6	12.1	11.4	12.0	10.6	10.8	11.5
	リンゴ酸含量											
	(mg/100ml)											
	本年	平年	昨年									
115	0.06	0.06	0.05									

注) 平年値は、1991～2020年の平均

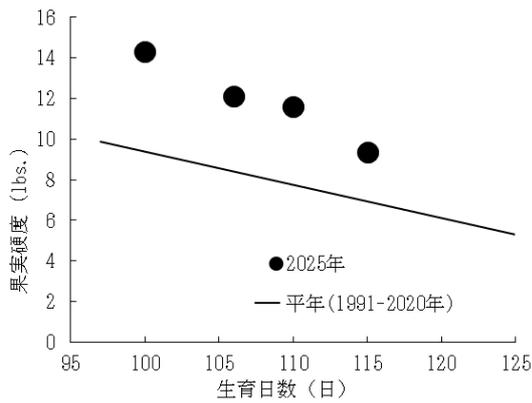


図2 「幸水」の果実硬度の推移

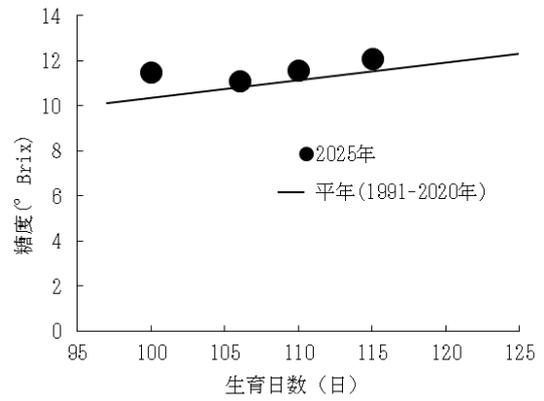


図3 「幸水」の糖度の推移

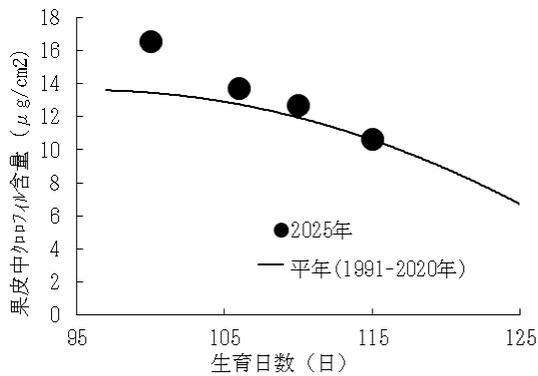


図4 「幸水」の果皮中クロフィル含量の推移

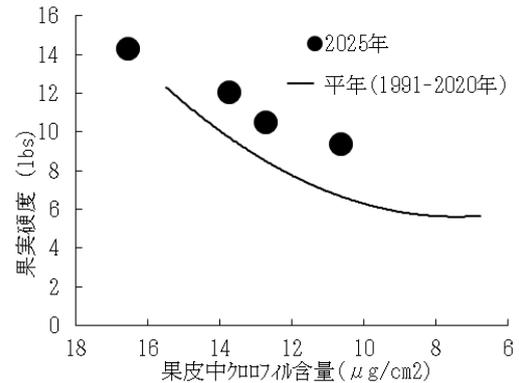


図5 「幸水」の果皮中クロフィル含量と硬度の推移

(3) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が70.2mm（平年比97%）、横径が81.8mm（平年比99%）、「ふじ」は縦径が63.5mm（平年比96%）、横径が70.0mm（平年比96%）と両品種とも平年並の状況です。

満開後日数で比較すると、両品種とも平年より小さい状況です。

イ 成熟状況

満開後109日（8月12日）における「つがる」の成熟状況は、硬度が15.4ポンド、デンプン指数は2.4、糖度は12.6° Brix、リンゴ酸は0.35g/100mlとなっています（図6～9）。

満開後日数での比較では、果皮中アントシアニン含量が平年より低く、果皮中クロフィル含量は平年より高く推移しています（図10、11）。

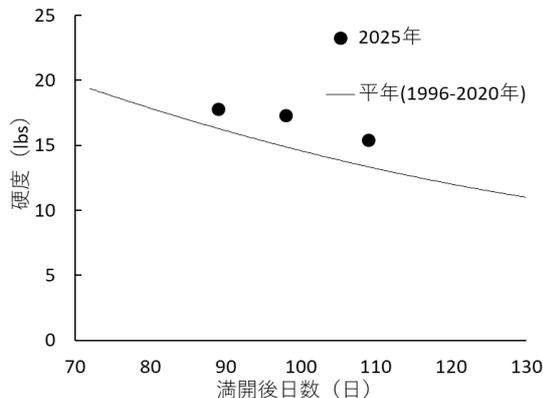


図6 「つがる」の果実硬度の推移

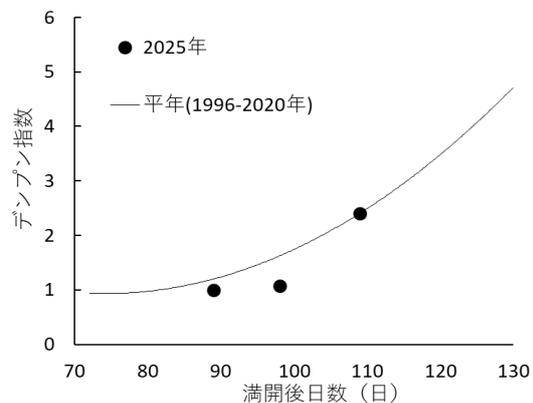


図7 「つがる」のデンプン指数の推移

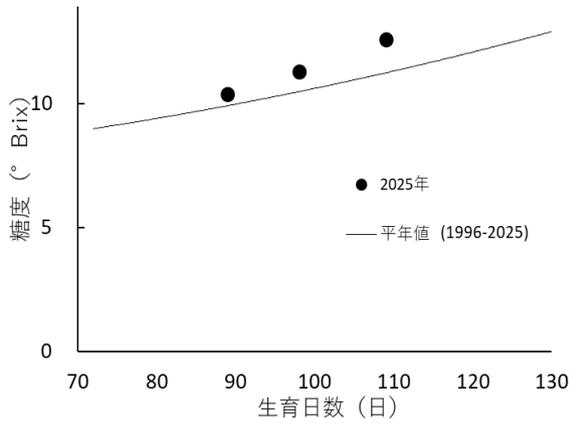


図8 「つがる」の糖度の推移

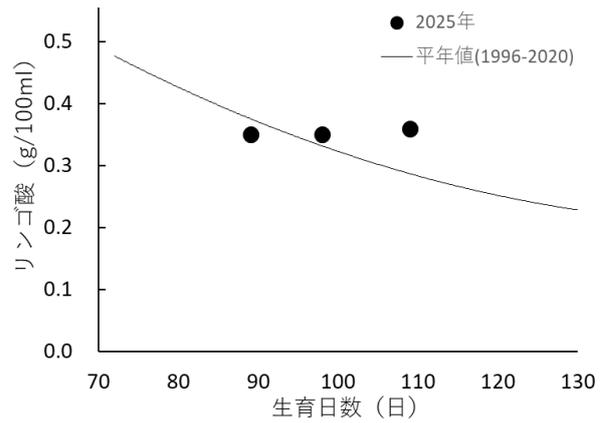


図9 「つがる」のリンゴ酸の推移

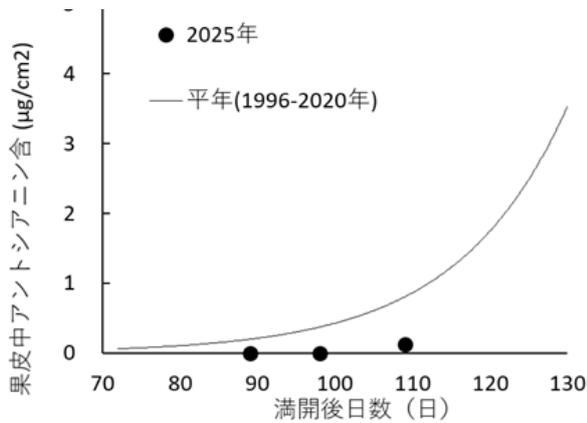


図10 「つがる」の果皮中アントシアニン含量

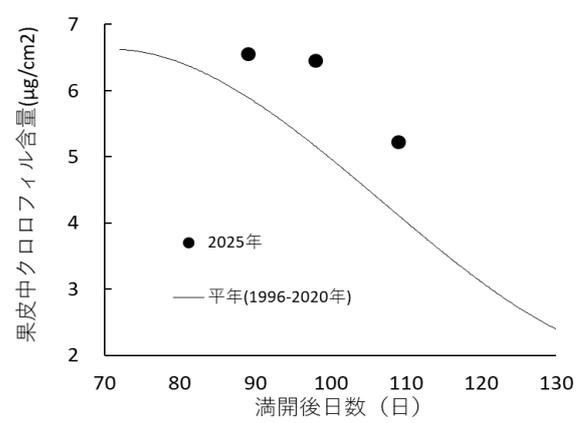


図11 「つがる」の果皮中クロロフィル含量の推移

(4) ぶどう

ア 成熟状況

満開後 58 日（8 月 5 日）における「巨峰」の成熟状況は、果皮色が 8.1、糖度が 17.7° Brix、酒石酸含量が 0.75g/100ml、糖酸比が 23.7 となっています。

満開後日数で比較すると、平年より糖度が高く、酒石酸含量が低い傾向です（図 12～15）。

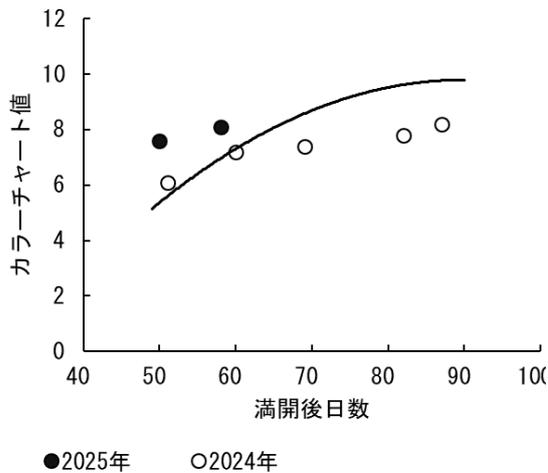


図12 「巨峰」の果皮色の推移

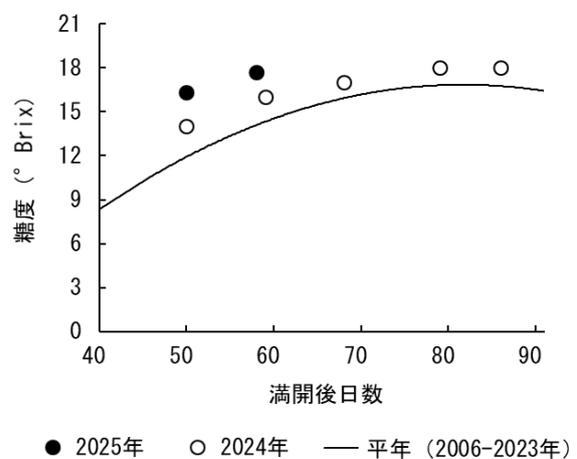
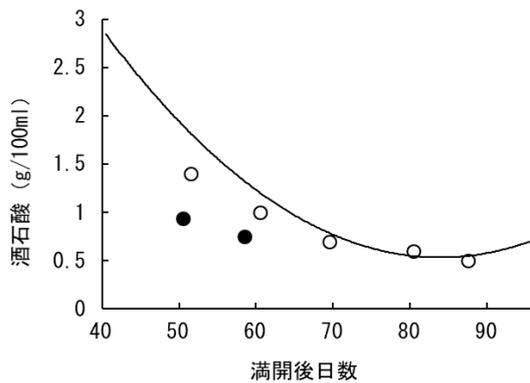
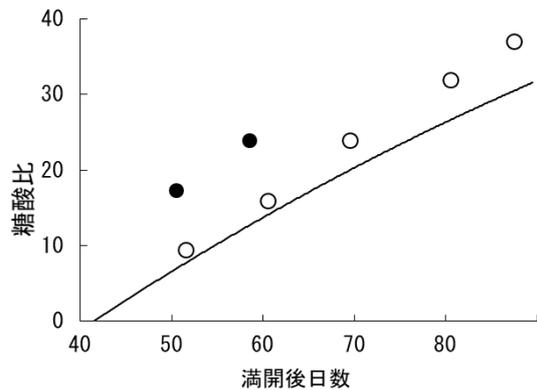


図13 「巨峰」の糖度の推移



●2025年 ○2024年

図 14 「巨峰」の酒石酸含量の推移



●2025年 ○2024年 — 平年 (2006-2023年)

図 15 「巨峰」の糖酸比の推移

イ 収穫状況

「あづましずく」（短梢栽培）の収穫盛期は、8月10日で平年より8日早くなりました（表4）。

表4 ブドウ「あづましずく」の収穫状況

栽培方法	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
長梢栽培	8/7	8/11	7/31	8/8	8/15	7/31	8/12	8/18	8/5
短梢栽培	8/7	8/15	7/31	8/10	8/18	8/10	8/12	8/21	8/10

注) 平年値は、2004～2020年の平均

ウ 果実品質

「あづましずく」の果実品質は、長梢栽培、短梢栽培ともに糖度及び糖酸比が平年より高く、酒石酸含量が平年より低くなりました（表5）。

表5 「あづましずく」の果実品質

栽培方法	果皮色 (カラーチャート値)			糖度 (° Brix)			酒石酸 (g/100ml)			糖酸比		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
長梢栽培	9.7	9.2	8.8	19.3	18.0	18.6	0.42	0.50	0.46	46.0	36.8	40.0
短梢栽培	9.7	8.9	8.9	18.6	17.9	18.7	0.45	0.52	0.43	41.5	35.5	43.2

注) 平年は2004年～2020年の平均値

4 栽培上の留意点

果樹研究所における8月前半の降水量は平年比133%でしたが、8月18日現在では土壌が乾燥状態にあることから、各園地の状態に応じて適切な対策を実施しましょう。

また、8月14日に発表された1か月予報では、今後の平均気温は高い確率が80%と予想されており、特に期間の前半はかなり高くなると見込まれています。

高温・乾燥状態が続く場合には、速やかにかん水を実施しましょう。

(1) 共通

ア 乾燥傾向の園地

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安と

し、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょ（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょ。

イ 過湿傾向の園地

土壌の過湿は葉の褐変や黄変落葉を引き起こす原因となるので、停滞水が発生しやすい園地では排水対策を徹底ましょ。また、落葉した場合は、葉枚数や葉面積に応じた着果量の見直しを行いましょ。

ウ 高温期間中の収穫作業

果実温が高いと日持ち性が低下ますので、収穫は果実温が低い朝のうちに行いましょ。また、収穫後は直射光の当たらない涼しい場所に保管し、速やかに出荷調整を行いましょ。

(2) もも

ア 晩生品種の収穫前管理

今後、晩生品種については適期に修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施ましょ。有袋栽培では、適期に除袋するとともに、着色管理作業も計画的に行いましょ。

また、乾燥後の降雨に伴い、果実の生育が早まる傾向があるため、収穫が遅れないように注意ましょ。

(3) なし

ア 「幸水」の収穫

「幸水」の品種特性として、収穫盛期の降雨などにより急激に土壌水分が増加した後は果皮中クロロフィルや果肉硬度の低下が急激に進むので、収穫が遅れないように注意ましょ。

収穫基準は、全農福島作成「幸水」用カラーチャートの1.5～2を目安にし、適期収穫に努めましょ。

なお、収穫時の果実温度が高いと果肉軟化が促進され芯腐れ果の発生につながりやすいので、気温の低い時間帯に収穫し、収穫後は涼しい場所に保管ましょ。

(4) りんご

ア 早生種の収穫前管理

気温の高い日が続いていることから、日焼け果の発生が確認されています。葉摘みは、日焼け果の発生状態を確認しながら数回に分けて行いましょ。

イ 早生種の収穫

今後、気温が高温で推移する場合、果肉の軟化が懸念まれます。気象の推移に注意しながら着色や果肉硬度に注意して適期収穫を心がけましょ。

ウ 落果防止剤散布

「つがる」の落果防止剤としてストップポール液剤を用いる場合には、収穫開始予定日などの農薬使用基準に十分注意して散布ましょ。

エ 修正摘果

中・晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等をよく見て修正摘果を行いましょ。

(5) ぶどう

ア 収穫適期の把握

収穫時期は品種、地域、樹勢、房型や着房量によって異なりますので、果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等について総合的に判断し、適期収穫を心がけましょ。

イ 収穫時の留意点

a 雨の日やその直後の果実は糖度が低く、日持ちも悪い傾向にあります。収穫前の2～3日が

晴天で、当日も晴れている日に収穫するように心がけましょう。

- b 収穫は、日持ちを向上させる目的で果実温度の低い早朝などに行いましょう。
- c 主枝の先端や日当たりが良く登熟が進んだ枝の果実は成熟が早いので、優先して収穫しましょう。
- d 果粉を落とさないため、収穫果実は穂軸を持ち、果粒に直接触らないように注意しましょう。

5 病虫害防除上の留意点

高温が続いています。薬害発生を防止するため、薬剤散布は、高温時を避けて早朝または夕方に実施しましょう。また、急な降雨に備えて気象情報に留意し、防除タイミングを逃さないようにしましょう。

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病

病虫害防除所による7月中下旬の発生調査では、本病の発生は場割合は、中通りで平年よりやや高い状況でした（令和7年リンゴ病虫害発生状況（7月中下旬））。褐斑病の感染、発病が増加する時期であるため注意が必要です。本病の発生が多い場合は、中・晩生品種を対象にユニックス顆粒水和剤47を2,000倍で使用しましょう。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。

イ ナシ黒星病

本病の発生が多い園地では、秋期防除として「幸水」収穫後にトリフミン水和剤を3,000倍、またはフルーツセイバーを3,000倍で使用しましょう。なお、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統薬剤の使用回数に十分注意してください。また、発生が少ない園地では今回の防除を省略することができます（参考：令和4年度普及に移しうる成果（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/566356.pdf>））。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

今後の気温が平年よりも2℃高く推移した場合、第5世代成虫の誘殺盛期は8月6半旬ごろと予測され、第6世代幼虫の防除適期は8月6半旬と推定されます（表6）。

本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、第4世代成虫の誘殺盛期は、8月6半旬ごろと予測され、第5世代幼虫の防除適期は、9月1半旬ごろと推定されます（表6）。

本種は、もも等の核果類の新梢伸長が停止すると、なし果実への寄生が増加します。例年、なしの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除も徹底しましょう。なお、薬剤による防除を実施する場合は、使用基準を厳守しましょう。

ウ カイガラムシ類

今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、ナシマルカイガラムシ第3世代のふ化開始は、9月1半旬ごろと予測され、ふ化盛期は9月4半旬ごろと推定されます（表6）。例年、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月下旬から9月上旬ごろとなっています。カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意し、発生状況に応じて防除を行いましょう。

エ カメムシ類

本年は、防除所のフェロモントラップ調査における誘殺数は、複数の調査地点で例年より多い傾向にあります。飛来状況をよく観察し、多数の飛来がみられる場合には速やかに防除を行いましょう。

防除にあたっては、果樹情報特別号「果樹カメムシ類の防除対策」（7月14日発行）を参考に、地域一体となって取り組みましょう。

表6 果樹研究所における防除時期の推定（令和7年8月14日現在）

今後の気温 予測	モモハモグリガ		ナシヒメシクイ		ナシマルカイガラムシ	
	第5世代 誘殺盛期	第6世代 防除適期	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期	第3世代 ふ化開始	第3世代 ふ化盛期
2℃高い	8月26日	8月30日	8月29日	9月4日	9月5日	9月17日
平年並	8月28日	9月1日	9月1日	9月8日	9月9日	9月25日
2℃低い	8月29日	9月2日	9月3日	9月12日	9月13日	10月7日

起算日：モモハモグリガ第4世代誘殺盛期 8月8日（予測値）（演算方法は三角法）
 ナシヒメシクイ第3世代誘殺盛期8月5日（予測値）（演算方法は三角法）
 ナシマルカイガラムシ3月1日（演算方法は三角法）

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

福島県農薬危害防止運動を実施中

■農薬使用基準の遵守 ■農薬飛散防止対策の徹底 ■住宅地等における農薬適正使用の推進
 実施期間：6月10日から9月10日まで。農薬による事故等の未然防止に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344
 （以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。）

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>